

1本一千万円の松が目前の畑に3本も

暑い夏をやっと乗り越えたと思えば、もう紅葉の季節ですね。秋に剪定を予定されるお宅が多いので、庭師さんがもう入られたお宅もあるかもしれませんね。気分はもうお正月に向かってまっしぐらです。

お正月と言えば近頃ではあまり飾られなくなりましたが松竹梅の鉢植えがあります。私の住んでいる稲沢の目比地区は昔から盆栽と松竹梅の生産が盛んで、今でも松竹梅用の松、梅、南天等の生産をし、お正月前には松竹梅の鉢への植込みが行われ毎年この地方のニュー



千代田園芸社
の石倉です

スとしてテレビに出ています。写真は梅の生産風景です。盆栽の生産はすっかり廃ってしまいました。今はバラの生産者、山野草の生産者などがいます。

私の子供の頃には盆栽のすごい名人がいました。その人は祖父の囲碁仲間で時々我が家へ祖父の相手に見えました。その方の盆栽を祖父は絶賛していました。特に梅は独特の技法を持っていられたようで、子供心にもすごいと思った記憶があります。相当な値を付けて買い手が頻繁に来られたようで、その度に囲碁に見え祖父に売ろうかどうか相談されました。かわいくてかわいくて手放せないようでした。そこには当時で**1本一千万の値が付いた松が3本**ありました。決して大きな松ではなくて高さ2メートルから2メートル50センチくらいだったと思います。1本買い手が付いたその時も相談に見えました。もう80歳近かったと思うので、祖父は売るようにアドバイスしたようです。泣く思いで1本売られ静岡の有名ゴルフ場にお嫁に行ったよう

です。その後わりと早く亡くなられ残った松はみるみる姿を変えてしまいました。そこまで造れるのは、その方だけだったからだと祖父が言ってました。相当姿を変えた後1本300万で売れ、残りの1本はだめになってしまいました。結局売れなかった盆栽がどうなったかは知りませんが確かに育てた木を売るのはさみしいかもしれません。私は育てた木ではなく探して出合ってお庭に入れることが多いのですが、出逢ってお庭に収めた時にここに来るために**この子と出会ったと思う瞬間**があります。鳥肌が立つような瞬間であり、最も幸せな瞬間です。



松竹梅用の梅です。このままお買い上げ頂く植木屋さんもみえますが、何年か育てる場合もあります

家族が変わればお庭も変わる

今年の春のことですが、陶釉さんのところへ展示物を拝見させて頂いていたときのことです。私は一通り展示物を見て、カウンターで抹茶を頂いておりました。

私は、いつも陶釉さんに伺うと抹茶にしています。その理由は、普段抹茶を頂くことがないことと陶釉さんで出して頂く手づくりの茶菓子が季節ごとに違い毎回楽しみにしているからです。

私がそろそろ帰ろうとしていたときです。陶釉のオーナーの伊藤さんが、「お宅も庭をリフォームするんだったら、千代田さんいいわよ」

とその方にご紹介して頂きました。

その方も、伊藤さんという方で陶釉さんのお友達だそうで、筒尾にお住まいの方です。

たまたまご自宅をリフォーム中なので、庭もどうかということでした。

その時は、筒尾の伊藤さんとは、挨拶程度でお別れしました。

その後夏の初めに、その筒尾の伊藤さんから電話を頂きました。

「室内のリフォームが一段落するので、一度見に来て欲しい」とのことでした。

そして私は直ぐにお宅にお伺いしました。

そうしましたら、ご主人が生前に前回案内した陶釉さんに負けずとも劣らないくらいたくさん石を使ってお庭を造られていました。



↑
リフォーム前



リフォーム後
↓

しかしお庭を大好きで面倒をみておられたご主人が亡くなられ、しばらく手つかずでいたようです。それと奥様が生活の仕方を変えたいとお家の中も大幅にリフォームされて、お庭とのかかわりかたも変えようとされているとのことでした。

その意向を汲んで手を入れさせて頂くことになりました。伊藤様からの要望は、

- ・キウイ棚を残す
- ・居間と庭が一体感があるように
- ・木の数を減らす
- ・出来るだけ歩きやすくする

以上の4つでした。

そこで、私はキウイ棚の手入れが出来るだけ簡単に丈夫なものにしました。

鉄だとペンキを塗りなおしたり、木だと腐る心配があります。そこで木製に見えるアルミの棚にしました。そして一体感を持たせるため居間から庭にそのまま降りられるように石張りにしました。

居間から降りるのに段差がかなりありましたので、細かく階段を作りました。

置いてあった石臼を飛び石に利用し、歩きやすくしました。

さらに石組みのある方はご主人の思いでを出来るだけそのままにして、手入れしやすいように生垣を人造竹の御簾垣に変え余分な木を伐採し、残りを剪定しました。伊藤さんには大変気に入って頂けたようです。

ご縁を頂きました陶釉のオーナー伊藤さんに大変感謝しております。

お庭を造られ20年、30年たったお宅もたくさんあると思いますが、当時と家族構成も時間の使い方もかわった。健康状態もかわった等お庭のあり方も変えなくてはならなくなっている場合が多いと思います。どうしていったらいいか等お悩みの方は遠慮なく相談ください。

一度施肥について学んでみませんか

施肥というと農家の方が作物を大きくするというイメージがあるのかもしれませんが、余り施肥をされたがらない方がみえるようです。

樹木の場合は、大きくするというもありますが、木の弱りを防ぐ効果があります。

11月25日(土)に施肥を勉強する機会を設けましたので、本当の知識を学んでみませんか？

詳しくは同封のチラシをご覧ください。